

医学部3年だった1993年、公衆衛生学実習で当時東大第一外科の木村 理先生(山形大学名誉教授)の下で、粘液産生膵腫瘍の疫学調査を行わせていただいた。医学中央雑誌やMedlineで検索し、200例超のデータを集積したが、そのほとんどが本邦からの報告だったことを覚えている。まとめたデータを木村先生が英文論文に仕上げて下さったもの¹⁾が、最終的な学生実習レポートにもなった。まだ、胆膵どころか、消化器内科を選択するかどうかも考えていなかった時期であった。

卒業後、内科研修を経て、消化器内科、胆膵領域へと進んだ結果、IPMNにその名を変えた本疾患に再び巡り会うことになった。山雄先生に巻頭言でその疾患概念の変遷にも触れていただいたが、MCN等との混同を避けるために、超音波やEUSのレポートにも、「多房性病変」ではなく、「多房様病変」あるいは「分枝膵管の嚢胞状拡張の集簇」と記載すべきかなど、診断する側の悩みをもつようになった。そして、「IPMNはゆっくり発育し、最後に浸潤癌になる。したがって大きなIPMNに注意すればよい」と思っていた私も、小型IPMNの長期観察中にIPMNが変化しないにも関わらず、突然通常型膵癌が発生した症例を担当し、本号特集で取り上げている小嚢胞にも目を向ける必要性に直面することとなった。

画像診断の進歩により多数のIPMN/膵嚢胞が指摘されるようになった今、確かに健常人と比べると膵癌の高リスク群ではあるが、過度に心配されるほどの高リスクでもなく、消化器内科のcommon diseaseとしてその病態や経過観察のポイントを理解していただいたなら幸いである。

- 1) Kimura, W., Sasahira, N., Muto, T., Makuuchi, M., et al.: Duct-ectatic type of mucin producing tumor of the pancreas—new concept of pancreatic neoplasia. Hepatogastroenterology 43; 692-709, 1996

(がん研有明病院肝胆膵内科 笹平 直樹)

臨牀 消化器内科® Vol. 34 No. 12

©2019年10月20日発行

定価(本体3,000円+税)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2019, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所/日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 03-5226-2791